

第 42 回日本血管外科学会学術総会が

2014 年 5 月 21 日(水)～5 月 23 日(金)に

ホテル青森・リンクステーションホール青森にて開催されます。

当院からは血管外科 医長 今井 崇裕 医師が

5 月 23 日 (金) の 10 : 30～11 : 50 第 8 会場にて

学術発表されますので、ご紹介致します。



第42回

The 42nd Annual Meeting of Japanese Society for Vascular Surgery

日本血管外科学会学術総会



ともに歩む血管外科
(Partnership in vascular surgery)
—情熱、経験、エビデンス—

会期 | **2014年5月21日【水】 ▶ 23日【金】**

会場 | ホテル青森・リンクステーションホール青森【青森市文化会館】

会長 | 福田 幾夫【弘前大学大学院医学研究科 胸部心臓血管外科学講座】

事務局	弘前大学大学院医学研究科 胸部心臓血管外科学講座 〒036-8562 青森県弘前市在府町5番地 TEL: 0172-39-5074 FAX: 0172-37-8340
運営準備室	日本コンベンションサービス(株) 東北支社内 〒980-0824 仙台市青葉区支倉町4番34号 丸金ビル6F TEL: 022-722-1311 FAX: 022-722-1178 E-mail: 42jsvs@convention.co.jp

<http://www.jsvs.org/meeting/42/>

日本血管外科学会総会 発表日：5月23日(金) 10時30分～11時50分

「膝関節の屈曲を契機に発症した限局性膝窩動脈閉塞に対し自家静脈グラフトを用いて再建した一例」

西の京病院血管外科 今井崇裕

Takahiro Imai

¹Department of Vascular Surgery, Nishinokyo Hospital, Nara, Nara, Japan

【抄録】 四肢の動脈は筋肉、筋膜、腱、骨などと接し、運動や肢位により常に外力が加わる特性を持っている。外力による動脈壁の変化は、血流変化をきたし、閉塞病変を引き起こす可能性がある。今回、膝関節の屈曲を契機に発症した限局性膝窩動脈閉塞に対し自家静脈グラフトを用いて再建した一例を経験したので報告する。症例は69歳、男性。40年間趣味で乗馬をしている。10年前より潰瘍性大腸炎の診断で投薬加療中であり、和式トイレに行くことが多い。高血圧症、高脂血症、糖尿病など生活習慣病はない。1週間前にトイレでしゃがんだ際、突然右下肢の冷感と疼痛を自覚したが放置、改善せず他医受診され急性動脈閉塞の診断で当院に緊急受診された。来院時、右下肢は蒼白及び冷感が著明で右大腿動脈の拍動は触知できたが、膝窩動脈より末梢側では拍動が消失していた。ABIは右：測定不可/左：1.19。採血結果でCPKは122U/L。心電図上、心房細動を認めない。造影CT上、膝窩動脈捕捉症候群や膝窩動脈外膜囊腫など動脈圧迫病変は認めなかった。下肢動脈造影検査を施行したところ右膝窩動脈は閉塞しており、膝下三分岐以下の動脈は造影された。閉塞部位以外の血管壁は非常にきれいで、動脈塞栓症を疑った。同日、一期的に血栓摘除術を行った。多量の血栓が摘出され、バックフローも良好であったが、術中血管造影検査を行ったところ、膝窩動脈に狭窄が残存していた。ABIは右：0.53まで上昇した。しかし3日後、再度同部位が閉塞したため、血行再建術を施行することとなった。手術は右鼠径部を切開し、総大腿動脈よりFogartyカテーテル(4Fr/80cm)を挿入して血栓摘除術を施行した後、大伏在静脈グラフトを採取。腹臥位として、S状切開で膝窩動脈を露出、血管造影で閉塞部を確認してバイパス術を施行した。術後良好に経過。ABIは右：1.02まで上昇。造影上吻合部狭窄認めず。24 POD退院となった。切除した動脈の病理学的診断は **Atherosclerosis and fresh thrombus** であった。